

真壁杯土による試作(第1報)

- テラポットの試作 -

窯業指導所

工 芸 部 鷲野谷 昇 大津 好満
安藤 康生

1. 緒 言

真壁土器業界は、需要構造の変革にともない大幅な生産ダウンにより休業する企業も続出している。土器製品の主力は園芸農家向けの仕立鉢等で、プラスチック鉢の進出により土器製品は衰退の一途である。社会環境の対応に即した新製品の開発研究として、専業家用の製品から一般消費者向けとした販路開発を考慮し、消費者ニーズの多様化、個性化にともなう販売展開として少量多品種生産体制とし商品の高付加価値化を図った試作研究を行った。

2. 内 容

- ・真壁杯土を用い、従来の焼成温度(800)よりも高温(1,050)で焼成する事により耐久性を持たせ、室内、屋外を問わず使用出来る製品とする。
- ・手口口成形、機械口口成形後、加飾を施す。半乾燥時に刻紋や線掘りをし、化粧土にて彩色を施す。

素 地	真壁杯土
成 形	口口成形
加 飾	印紋、刻紋、貼り付け、化粧土
焼成温度	1,050

3. 考 察

土味を生かした加飾や彩色により暖みがあり、現代生活にマッチした製品となった。また多様性のある“テラポット”は、消費者参加によるユニークな活用が期待できる。

4. 結 言

今回の試作品は技術的にも容易で、紋様、彩色等の加飾の展開によりメーカーの“オリジナル商品開発”が望める。

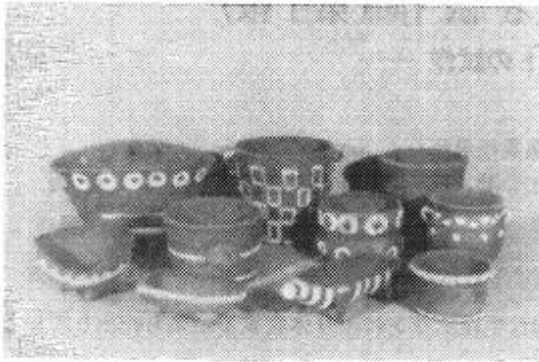


写真1 テラポット各種



写真2 テラポット使用例(1)

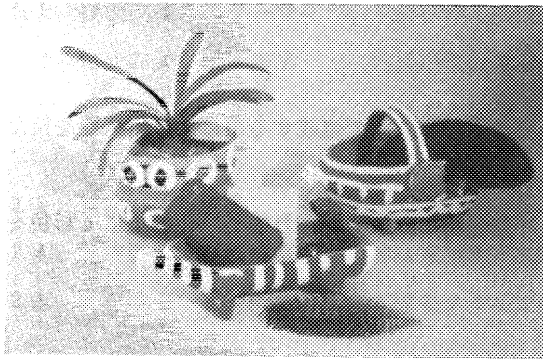


写真3 テラポット使用例(2)



写真4 テラポット使用例(3)